

題材名「尾形光琳作『紅白梅図屏風』を鑑賞しよう」…〈鑑賞〉
中学校第1学年

【題材の目標】

- ・『紅白梅図屏風』のよさや美しさを感じ取り、美術文化に対する関心を高め、思いや考えを主体的に味わおうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・『紅白梅図屏風』における作者の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り、造形的な視点から対象の見方や感じ方を広げたり、気付いたりしている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

- ・生徒は、ゴッホやピカソ等の西洋美術については関心も高くよく知っている。しかし、我が国の美術文化については関心が低い傾向にある。そこで、本県の美術館に所蔵されている作品を取り上げ、そこから日本美術のよさや美しさを感じ取り、関心を高めるきっかけとしていきたい。

【美術文化（例）】

- ・文化遺産を鑑賞することを通して、美術文化と伝統を実感的に捉え、その特性やよさに気付き、積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めたい。加えて、伝統的な表現や価値観が現代の生活にも息づいており、日々の生活の中でそれらに親しみ理解していることに気付かせたい。
- ・日本美術と西洋美術とを比較鑑賞することで、対象の捉え方や技法、材料などの違いを学ぶことができる。また、日本美術が西洋に与えた影響等を知ることで、生徒の興味も高まると考える。更に、双方のよさを知ることで、自分なりの美術の見方や考え方を広げることができる。
- ・美術文化の学習では、過去の文化遺産としての美術作品などを鑑賞することは大切であるが、それはその時代のみのものでなく、更に遠い過去から現代に続く大きな歴史の中でつくられたものであることに気付かせたい。

【言語活動（例）】

- ・授業の中では、ものの見方や感じ方を豊かにしていくためにも、言葉によって学習を深めていきたい。その際、対象のよさや美しさ、作者の表現意図や工夫などを感じ取り、考え、更に他者と意見を交流して見方や感じ方を広げていく。生徒一人一人が感じ取ったことを大切にして自分の言葉で説明し合うことで、自分にはない新たな見方や感じ方に気付き、さらにそれらを踏まえて自分の目と心でしっかりと作品を捉えていく活動を展開していきたい。そのなかで、「対比」や「リズム」、「調和」などの造形に関する言葉を意図的に用いることで、自分だけでは気付かなかった視点や概念で対象を多面的、多角的に捉えさせていきたい。

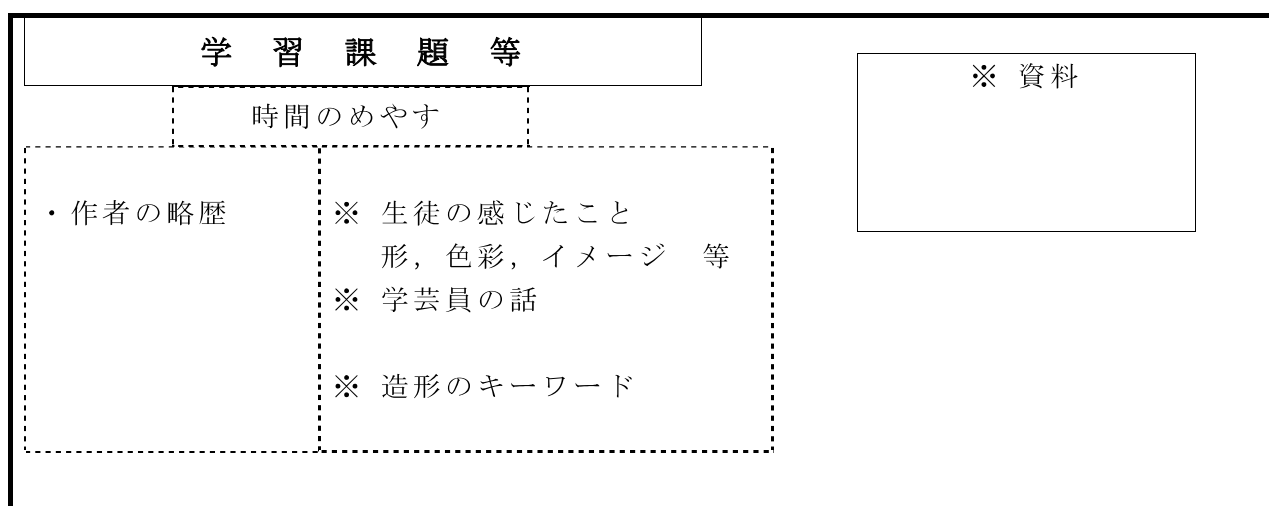
【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

「B鑑賞」に充てる授業時数については、今回の改訂では、「適切かつ十分な授業時数を確保すること」としている。これは、鑑賞の学習を年間指導計画の中に位置付け、鑑賞の目標を実現するために必要な授業時数を定め、確実に実施しなければならないことを意味している。そのためには、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫する必要がある。

鑑賞に充てる時数は示していないが、学習指導要領に示された内容が生徒に身に付けることができるかどうかを考え、各学校が適切かつ十分な時数を確保しなければならない。その際、生徒や各学校の実態、地域性などを生かした効果的な指導方法を工夫することが求められる。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P75より)

【板書例】



【準備物の例】

・ 作品のレプリカ 補助資料 ワークシート パソコン プロジェクター など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【美術館との連携】

本題材の『紅白梅図屏風』は、MOA美術館（熱海市）に所蔵され、毎年2月に実物が特別展示されるので、鑑賞することができる。

他にも、静岡県立美術館をはじめとした県内にある美術館と連携し、実物を鑑賞する機会が得られるようにしたり、学芸員と連携して授業を行ったりすることが考えられる。各学校区に近い美術館やギャラリーの特徴を生かしながら、可能な限り本物に触れることのできる鑑賞体験の場を設定したい。

このような学習の計画に当たっては、総合的な学習の時間や学校行事、地域に関する行事などとの関連を図るなどの工夫も行っていきたい。

【授業の具体例】 2時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・実物大のレプリカを鑑賞する。  <ul style="list-style-type: none"> ・小グループで気付いたことを伝え合う。 ・全体の場で発表する。 ・学芸員の話聞く。 ・グループごと作者や作品について考えたいポイントを絞る。 ・グループで絞ったポイントについて、個人で考えをまとめる。 ・それぞれの考えを出し合い、小グループで話し合う。 ・小グループごとで話し合ったことを出し合い、全体で話し合う。 ・感じたことや気付いたことを美術ノートにまとめる。 	2	<p>【美術への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『紅白梅図屏風』に興味を持ち、主体的に感じ取るようとしている。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、自分の思いを持って味わっている。 	<p>○この作品が県内に所蔵されていて国宝であること、5千円札の絵（燕子花図屏風）と作者が同一であることを紹介する。</p> <p>○作者名や時代など、詳しい情報は与えずに、自由に鑑賞させる。</p> <p>○出てきた感想を、形や色彩、イメージ等のキーワードで黒板にまとめていく。漠然とした言葉や表現であっても、第一印象を大切にし、つぶやき等も認める。</p> <p>○MOA美術館の学芸員を招き、作者や作品についての詳しい話を聞く。</p> <p>○生徒が自分自身の考えを持つ時間を確保する。</p> <p>○「（例1グループ）屏風の中央の水流を取り除いた画像をスクリーンに映し、本来の屏風と比較する。」 「（例2グループ）屏風の状態と平面の状態を見比べて効果を比較できるようにする。」等、小グループごとの考えが深まるように支援する。</p> <p>○全体での話し合いでは、具体物なども用いながら互いに発表し、多角的に鑑賞できるように支援する。</p> <p>○対比、リズム、調和など造形に関する生徒の言葉を整理して板書し、生徒のまとめの参考となるようにする。</p>